

社会資本総合整備計画（社会資本整備総合交付金） 【通常の計画】 事後評価説明書

令和2年11月18日
甲府市公共事業評価委員会

計画の名称	甲府市における循環のみちの実現			計画の期間	平成27年度 ～ 平成31年度 (5年間)								
1. 交付対象事業の進捗状況													
交付対象事業													
A 基幹事業													
番号	施設種別	省略工種	要素となる事業名	事業の概要	事業内容	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）	指標番号	
						H27	H28	H29	H30	H31			
A07-001	—	—	施設計画策定業務	新設整備事業に係る計画等の策定業務	効率的な事業実施のための計画策定							42	—
A07-002	管渠(雨水)	新設	雨水幹線(浸水対策)	雨水を汚水とは別に河川まで排出するための「雨水渠」を整備するための事業	L=0.34km							45	指標②
A07-003	終末処理場	新設	甲府市浄化センター増設事業	処理場で汚水を処理した際に発生する「下水汚泥」を処理するための焼却施設を建設する事業	汚泥焼却炉増設60t							693	指標③
A07-004	管渠(汚水)	新設	大津処理区(普及促進)	大津処理区(旧甲府)における汚水管路施設の新設整備事業	L=14.3km							1,086	指標①
A07-005	管渠(汚水)	新設	峡東処理区(普及促進)	峡東処理区(旧中道)における汚水管路施設の新設整備事業	L=2.3km							53	
小計(下水道事業)											1,919		
合計											1,919		
2. 計画の成果目標													
定量的指標の定義及び算定式						定量的指標の現況値及び目標値							
						当初現況値【H27当初】	中間目標値【H29末】	最終目標値【H31末】					
指標①	(定義) 下水道整備率を88.4%(H27年度当初)から90.5%(H31年度末)に増加させる。(甲府市全体)	(算定式) 甲府市全体の下水道整備率 = 甲府市の下水道整備済面積 (ha) / 甲府市の下水道全体計画区域面積 (ha)				88%	90%	91%					
指標②	(定義) 雨水渠幹線の整備率を10.8%(H27年度当初)から23.1%(H31年度末)に増加させる。	(算定式) 雨水渠幹線の整備率 = 浸水対策完了済み雨水渠幹線延長 (m) / 浸水対策を実施すべき雨水渠幹線延長 (m)				11%	23%	23%					
指標③	(定義) 甲府市浄化センター汚泥焼却施設における汚泥処理能力を50t(H27年度当初)から110t(H31年度末)に増加させる。	(算定式) 甲府市浄化センター汚泥焼却施設における汚泥処理能力				50t	110t	110t					
3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況													
指標の番号	I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況				II 定量的指標の達成状況								
指標① (甲府市全体の下水道整備率)	大津処理区の東部及び北部の市街化調整区域、峡東処理区(旧中道町)において、計画期間内の公共下水道管整備予定面積93.91haに対し、100.20haを整備し、公衆衛生の向上と公共用水域の水質保全を図った。				最終目標値	91%	目標値と実績値に差が出た要因	計画的に下水道管整備を行い、目標を達成した。 算定式：(当初整備済面積+計画期間内整備面積) ÷ 全体計画面積 × 100 【目標値の算定】(3941.20ha + 93.91ha) ÷ 4459.35ha × 100 ≒ 90.5% 【実績値の算定】(3941.20ha + 100.20ha) ÷ 4459.35ha × 100 ≒ 90.6%					
					最終実績値	91%							
指標② (雨水渠幹線の整備率)	市街地における浸水対策として、計画期間内の施工予定延長180mの雨水渠幹線の整備を実施し、安全・安心のまちづくりを推進した。				最終目標値	23%	目標値と実績値に差が出た要因	雨水渠整備を行い、目標を達成した。 算定式：(当初整備済延長+計画期間内整備延長) ÷ 整備計画延長 × 100 【目標値の算定】(158m + 180m) ÷ 1,463m × 100 ≒ 23.1% 【実績値の算定】(158m + 180m) ÷ 1,463m × 100 ≒ 23.1%					
					最終実績値	23%							
指標③ (甲府市浄化センター汚泥焼却施設における汚泥処理能力)	汚泥処理能力60tの汚泥焼却炉の増設工事が完了したことにより、能力50tの既存施設と合わせ処理場における汚泥処理能力が110tとなった。これにより、処理場で発生する全量汚泥の焼却処理が可能となり、下水汚泥の減量化と有効利用の促進が図られたとともに、効果的で経済的な処理工程が確立された。				最終目標値	110t	目標値と実績値に差が出た要因	計画的に事業実施を行い、目標を達成した。 【目標値の算定】110t 【実績値の算定】110t					
					最終実績値	110t							
4. 特記事項（今後の方針等）													
【今後の方針】 今年度より、計画期間を令和2年度から令和6年度までとする新たな社会資本整備総合交付金に係る社会資本総合整備計画に基づき事業を実施している。引き続き、都市の健全な発展及び公衆衛生の向上に寄与し、安全で快適な生活環境の創造に向け、予算の確保、事業の適正な執行管理に努め、計画的かつ着実な汚水管渠の整備を推進する。また、浸水対策事業についても、市街地の浸水防止対策の実施により安心・安全のまちづくりを推進するため、交付金事業による雨水渠幹線の整備のほか地域要望等に応じた雨水渠整備についても継続的に実施する。													

社会資本総合整備計画（社会資本整備総合交付金） 【重点計画】 事後評価説明書

計画の名称	甲府市における循環のみちの実現（重点計画）			計画の期間	平成30年度 ～ 平成31年度 (2年間)								
1. 交付対象事業の進捗状況													
交付対象事業													
A 基幹事業													
番号	施設種別	省略工種	要素となる事業名	事業の概要	事業内容	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）	指標番号	
						H27	H28	H29	H30	H31			
A07-001	管渠(汚水)	新設	大津処理区(普及促進)	大津処理区(旧甲府)における汚水管路施設の新設整備事業	L=4.3km							120	指標①
A07-002	管渠(汚水)	新設	峡東処理区(普及促進)	峡東処理区(旧中道)における汚水管路施設の新設整備事業	L=1.1km							174	
小計(下水道事業)											294		
合計											294		
2. 計画の成果目標													
定量的指標の定義及び算定式						定量的指標の現況値及び目標値							
						当初現況値【H27当初】	中間目標値【H29末】	最終目標値【H31末】					
指標①	(定義) 下水道整備率を88.4%(H27年度当初)から90.5%(H31年度末)に増加させる。(甲府市全体)	(算定式) 甲府市全体の下水道整備率 = 甲府市の下水道整備済面積 (ha) / 甲府市の下水道全体計画区域面積 (ha)				88%	90%	91%					
3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況													
指標の番号	I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況				II 定量的指標の達成状況								
指標① (甲府市全体の下水道整備率)	大津処理区の東部及び北部の市街化調整区域、峡東処理区(旧中道町)において、計画期間内の公共下水道管整備予定面積93.91haに対し、100.20haを整備し、公衆衛生の向上と公共用水域の水質保全を図った				最終目標値	91%	目標値と実績値に差が出た要因	計画的に下水道管整備を行い、目標を達成した。 算定式：(当初整備済面積+計画期間内整備面積) ÷ 全体計画面積 × 100 【目標値の算定】(3941.20ha + 93.91ha) ÷ 4459.35ha × 100 ≒ 90.5% 【実績値の算定】(3941.20ha + 100.20ha) ÷ 4459.35ha × 100 ≒ 90.6%					
					最終実績値	91%							
4. 特記事項（今後の方針等）													
【今後の方針】 今年度より、計画期間を令和2年度から令和6年度までとする新たな社会資本整備総合交付金に係る社会資本総合整備計画に基づき事業を実施している。引き続き、都市の健全な発展及び公衆衛生の向上に寄与し、安全で快適な生活環境の創造に向け、予算の確保、事業の適正な執行管理に努め、計画的かつ着実な汚水管渠の整備を推進する。													